

総合防災訓練

柳井市・田布施町・周防大島町・上関町・柳井支部

右：県消防防災ヘリコプター「きらら」による救出訓練
下：埋没車両からの救出訓練



「たすけあいおおきな輪になれぼくのまち」

2015年山口県総合防災訓練 in 柳井

■互いの連携を強化し
地域の未来を守る

(一社)山口県建設業協会は、平素から清掃活動や安全パトロールを行い、地域の安全を見守るのもちろんのこと、災害時には県、土木建築事務所、国土交通省中国地方整備局との協定に基づき、建設資機材や労力を尽くして、被害を最小限にいとめるよう取り組んでいます。

また、山口県では大規模災害時に第一線で活躍する関係機関を集めた「山口県総合防災訓練」を毎年実施しておりますが、当協会も災害協定を締結していることから、その一員として実施計画や全体会議の段階から参加しています。
平成27年の「山口県総合防災訓練」は6月7日(日)に開催され、柳井支部が参加しました。
今回の訓練は防災関係機関および住民が一体となって、協力体制の強化や防災意識の向上を図ることを目的に実施されており、2年ぶり、初めての6月開催となりました。

柳井市・田布施町・周防大島町・上関町の4市町6箇所を会場に、住民をはじめ、消防、警察、自衛隊など77の関係機関・団体から約1500人が参加し、避難訓練、救出・救助訓練、広報訓練などが行われました。また、当日は村岡知事も県消防防災ヘリコプター「きらら」で会場にかけつけました。



■息のあった作業で
迅速安全に倒木を撤去

メイン会場である柳井市の南浜グラウンドでは、「大雨による大規模な土砂災害の発生」「南海トラフを震源域とする巨大地震が発生、その後最大3.8mの津波が到達」との想定のもと訓練が行われました。

柳井支部からは当協会の会長で柳井支部長でもある井森工業(井森浩視代表)から4名が参加し、大雨により道路法面が崩落、車両の埋没が起こった現場で、道路をふさぐ倒木を速やかに撤去し、道路機能を復旧する訓練を行いました。

現場に到着した4名は、合図者の指示のもと、重機を操作し倒木を素早く撤去。細かい枝などは人の手で運び、緊急通路を確保しました。



出訓練や、消防航空隊、自衛隊によるヘリコプターを使用した浸水地域からの救出訓練が行われたほか、地震の際の安全確保行動として提唱されている「まず低く、頭を守り、動かない」を実践するシエイクアウト訓練を、参加者・見学者全員で行いました。

訓練終了後に倒木撤去の指揮をとった柳井支部の井森工業(河久保さん)にお話を伺うと「災害時に迅速に動けるよう、平日頃から天候やニュースのチェックなどは欠かせません。会員は地域を自分で守るという自覚をもって取り組んでおり、要請があれば早急に社員・協力会社に連絡を取り出し、復旧作業に携わります。今回の訓練では、倒木が腐っており重機でうまく扱えない場面もありましたが、災害時は何が起るかわかりません。画一的な手順だけでなく、さまざまな経験を糧として、実際の現場に応じた的確な判断ができるようにしていきたい」とおっしゃっていました。



訓練に参加した井森工業(株)の皆さん(一番左:河久保さん)